

```

*****
**                                     **
**                               ソフトウェア説明書                               **
**                                     **
**                               Symfoware Server Standard Edition V9.1.1          **
**                                     **
*****

```

本書は、製品の取扱い、ご使用に際して特に注意すべき事項、参考となる情報等を記したものです。

[高度な安全性が要求される用途への使用について]

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

#### ■商標について

- ・ Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Server、ActiveSync は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ ActiveX は、米国Microsoft Corporation の登録商標です。
- ・ Intel およびPentium は、Intel Corporation の登録商標です。
- ・ Java、JDBC およびすべてのJava 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。
- ・ Systemwalkerは、富士通株式会社の商標または登録商標です。
- ・ Interstageは、富士通株式会社の商標または登録商標です。
- ・ Symfoware、Linkexpressは、富士通株式会社の商標または登録商標です。
- ・ Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ OpenLinuxは、Caldera International, Inc. の米国ならびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ・ Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ UNIX、OSF/1およびX/Openは、The Open Groupの米国ならびにその他の国における登録商標です。
- ・ X Window Systemは、The Open Groupの商標です。
- ・ Netscape、Netscape Navigator、Netscape Communicationsは、米国Netscape Communications Corporationの商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本文中の記載内容は予告なしに変更される場合があります。

なお、本書では、各製品を次のように略記しています。あらかじめご了承ください。

- ・ Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system
- ・ Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
- ・ Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system
- をWindows(R) 2000と略します。
- ・ Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition
- ・ Microsoft(R) Windows(R) XP Professional
- ・ Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
- をWindows(R) XPと略します。
- ・ Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic
- ・ Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium
- ・ Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
- ・ Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
- ・ Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
- をWindows Vista(R)と略します。
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 Enterprise Edition for Itanium-based Systems
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 Datacenter Edition for Itanium-based Systems
- をWindows Server(R) 2003と略します。
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
- Microsoft(R) Windows(R) Web Server 2008
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-based Systems
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V
- をWindows Server(R) 2008と略します。
- ・ Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for Itanium)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel Itanium)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)
- をLinuxと略します。
- ・ Solaris(TM) 9 オペレーティングシステム
- Solaris(TM) 10 オペレーティングシステム
- をSolarisと略します。

All Rights Reserved, Copyright(C) 富士通株式会社 2008

本書の構成は以下のとおりです。

1. 製品概要
2. 適用マニュアル
  - 2.1 オンラインマニュアル
  - 2.2 マニュアルビューア
  - 2.3 印刷マニュアル (製品添付)
3. 動作環境
  - 3.1 ソフトウェア環境
  - 3.2 ハードウェア環境
  - 3.3 静的ディスク資源
  - 3.4 メモリ容量
4. 制限、注意事項
  - 4.1 制限事項
  - 4.2 移行上の注意
  - 4.3 注意事項
5. インストール手順
  - 5.1 インストール先のディレクトリ構成
  - 5.2 インストールの前準備
  - 5.3 インストール/アンインストール時の注意事項
  - 5.4 インストール時およびアンインストール時に表示されるメッセージについて
  - 5.5 ソフトウェアのインストール
  - 5.6 インストール後の環境設定
  - 5.7 ソフトウェアの削除方法
6. Symfoware Server クライアント機能について
  - 6.1 構成製品
  - 6.2 ソフトウェア説明書について
  - 6.3 インストール手順
- 付録A Symfoware/RDB 補足説明
  - A.1 アプリケーションが無応答状態になっている場合について
  - A.2 データ列関数と数値関数の非互換について
  - A.3 キーワードのレベルの省略値について
  - A.4 非活性状態のインデックスについて
  - A.5 RDBシステムセットアップ使用時の注意事項
  - A.6 RDB構成パラメタRDBCOREの設定内容の検証強化について
- 付録B Systemwalker Centric Managerとの連携について
  - B.1 メッセージ対処の簡易化を使用している場合
- 付録C 移行時の作業手順
- 付録D セキュリティを重視したシステムを構築する場合について
  - D.1 機能のインストール可否について
  - D.2 インストール後のセキュリティ対応について
- 付録E SymfoWARE (R) WebLinkを利用する場合の注意事項
- 付録F WebAdmin補足説明
  - F.1 ライセンス文
- 付録G WebDBtools補足説明
  - G.1 Webサーバの留意事項

## 1. 製品概要

Symfoware Serverは、可用性を必要とするミッションクリティカルな業務へ適用できるデータベースソフトウェア製品です。内蔵するリレーショナルデータベースエンジンは、大量データの処理、高速なデータベースアクセス、業務ノンストップを実現するための様々な運用機能を備えています。  
本製品は、Symfoware Serverのサーバ機能を提供するソフトウェアです。

## 2. 適用マニュアル

### 2.1 オンラインマニュアル

以下のマニュアルは、下記のCD-ROMにHTML形式で格納されています。

## － オンラインマニュアル

CD-ROMを直接参照することができます。

Symfoware Serverのマニュアルには、表記などにおいてルールがあります。Symfoware Serverのマニュアルを利用される場合には、このルールに従って読んでください。

また、ルールの詳細は、“マニュアルの読み方”を参照してください。

項番	マニュアル名称
1	FUJITSU Symfoware Server マニュアルの読み方
2	Symfoware Server アップデート情報 EE/SE用
3	FUJITSU Symfoware Server 解説書
4	Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用
5	FUJITSU Symfoware Server インストールガイド(クライアント編)
6	Symfoware Server Advanced Backup Controller インストールガイド
7	Symfoware Server セットアップガイド EE/SE用
8	Symfoware Server RDB運用ガイド EE/SE用
9	FUJITSU Symfoware Server RDB運用ガイド(データベース定義編)
10	FUJITSU Symfoware Server RDB運用ガイド(XMLアダプタ編)
11	Symfoware Server クラスタ導入運用ガイド
12	FUJITSU Symfoware Server WebDBtoolsユーザーズガイド
13	Symfoware Server RDA-SVオペレーションガイド
14	FUJITSU Symfoware Server アプリケーション開発ガイド(埋込みSQL編)
15	FUJITSU Symfoware Server アプリケーション開発ガイド(JDBCドライバ編)
16	FUJITSU Symfoware Server アプリケーション開発ガイド(ODBCドライバ編)
17	FUJITSU Symfoware Server アプリケーション開発ガイド(.NET Data Provider編)
18	FUJITSU Symfoware Server SQLビギナーズガイド
19	Symfoware Server コマンドリファレンス EE/SE用
20	FUJITSU Symfoware Server SQLリファレンス
21	FUJITSU Symfoware Server Java APIリファレンス
22	FUJITSU Symfoware Server SQLTOOLユーザーズガイド
23	Symfoware Server メッセージ集
24	FUJITSU Symfoware Server トラブルシューティング集

オンラインマニュアルを参照する場合、以下のブラウザの使用を推奨します。以下のブラウザ以外では正しく表示できない場合があります。

- ・Microsoft (R) Internet Explorer 5.5
- ・Microsoft (R) Internet Explorer 6.0
- ・Microsoft (R) Internet Explorer 7.0

### 2.1.1 WindowsでCD-ROMを直接参照する場合

1. CD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットします。
2. 以下のファイルをWebブラウザで開いてください。

CD-ROMのドライブ名:¥manual.html
---------------------------

### 2.1.2 SolarisおよびLinuxでCD-ROMを直接参照する場合

1. CD-ROM媒体をサーバのCD-ROM装置にセットします。

2. CD-ROMがマウントされていなければマウントします。
3. 以下のファイルをWebブラウザで開いてください。

/マウントポイント/manual.html
-----------------------

## 2.2 マニュアルビューア

マニュアルビューアは、オンラインマニュアルを検索するためのソフトウェアです。

マニュアルビューアを使用するためには、以下を起動してください。

CD-ROMのドライブ名:¥manual¥japanese¥bin¥ManualSearch.exe
--

必要なソフトウェアを以下に示します。

- Windows (R) 2000、Windows (R) XP、Windows Vista (R)、Windows Server (R) 2003、またはWindows Server (R) 2008
- Webブラウザ  
Microsoft Internet Explorer 5.5 以降

## 2.3 印刷マニュアル（製品添付）

本製品に添付される印刷マニュアルはありません。

## 3. 動作環境

本ソフトウェアを使用する場合には、以下のソフトウェア環境およびハードウェア環境を満たしている必要があります。

### 3.1 ソフトウェア環境

ソフトウェアのインストールに必要なソフトウェア環境については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第2章 動作環境”を参照してください。

### 3.2 ハードウェア環境

ソフトウェアのインストールに必要なハードウェア環境については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第2章 動作環境”を参照してください。

### 3.3 静的ディスク資源

ソフトウェアのインストールに必要な静的ディスク資源については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第2章 動作環境”を参照してください。

### 3.4 メモリ容量

ソフトウェアのインストールに必要なメモリ容量については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第2章 動作環境”を参照してください。

## 4. 制限、注意事項

### 4.1 制限事項

本ソフトウェアでは、マニュアルに記載された事項のうち、使用を制限しているものがあります。制限事項の内容と対処方法、および解除時期を以下に示します。

項番	制限事項	対処方法	解除時期
1	本ソフトウェアではリンクローカルアドレスを使用しないでください。	ありません。	未定

### 4.2 移行上の注意

以前のバージョンから本ソフトウェアに移行する場合の注意事項についてはオンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“付録A 移行時の作業手順”を参照してください。

#### 4.2.1 互換情報

互換情報については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server アップデート情報 EE/SE用 - Windows (R) -”を参照してください。

#### 4.2.2 シフトJISコードで作成されたデータベース環境からの資産の流用について

データベースに格納する文字コードの決定は、ディクショナリ作成時に行います。

シフトJISコードからUNICODEに移行する場合は、ログ、ディクショナリおよびデータベース環境を再構築する必要があります。

以下に手順を示します。

- 1) データのアンロード (注)
- 2) ログおよびディクショナリの再作成
- 3) 表の再定義
- 4) データのロード (-j SJISオプションを指定)

注) データのアンロードはテキスト形式で出力してください。

各資源に対する移行時に必要な作業

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| ー 環境定義            |           |
| RDB構成パラメタファイル     | 対処不要      |
| システム用動作環境ファイル     | 対処不要      |
| ログ環境              | 再作成が必要    |
| ディクショナリ           | 再作成が必要    |
| ー DB定義            |           |
| データベース、表          | 再定義が必要    |
| rdbddlコマンドの入力ファイル | 対処不要      |
| アンロードデータファイル      | 対処不要      |
| ー データアクセス         |           |
| アプリケーション          | 再コンパイルが必要 |

ただし、文字列長に注意しなければなりません。シフトJISコードに比べて、日本語文字のコード長が長くなる場合があります。そのため、アプリケーション内のホスト変数のサイズや表定義の中のカラム長を再度見直す必要があります。

#### 4.2.3 rdbludicコマンドについて

アップグレードインストール後に、“RDBディクショナリをレベルアップした場合に使用可能となる機能”を使用する場合は、RDBディクショナリをレベルアップしてください。レベルアップは、rdbludicコマンドで行います。

rdbludicコマンドの詳細については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows(R) -”の“付録B コマンドリファレンス”を参照してください。

#### 4.2.4 RDAサーバ利用時の各国語文字列型の返却値について

グローバルサーバまたはPRIMEFORCE上で実行したアプリケーションより、Windows(R) 2000、Windows Server(R) 2003上のRDAサーバを利用して各国語文字列型のデータを参照した場合、返却データの先頭にヘキサデータ0x28を付加されません。

各国語文字列型のデータの先頭にヘキサデータ0x28が付加されている事を前提としたアプリケーションを作成されている場合は、以下の環境変数を指定することで従来の動作(先頭にヘキサデータ0x28を付けて返却する動作)に戻すことができます。ただし、データの最終1バイトが文字切れします。

環境変数名: RDASV\_EBCDIC\_COMPATIBLE

設定値: YES 各国語文字列型の返却データの先頭に、ヘキサデータ0x28を付加して返します。

: NO 各国語文字列型の返却データの先頭に、ヘキサデータ0x28を付加せずにデータを返します。(省略時)

#### 4.2.5 その他

本バージョン・レベルでは、以下の機能をサポートしておりません。

- ー RDBオブジェクトマネージャ
- ー データベースマネージャ
- ー レポートライタ
- ー ODB
- ー ハイブリッドビュー(Symfo-DD)

レポートライタ機能を使用していた場合は、以下の製品をご使用ください。

- ・ Interstage Navigator Server Enterprise Edition
- ・ Interstage Navigator Server Standard Edition

### 4.3 注意事項

#### 4.3.1 Symfoware Serverの各機能を利用する場合の注意事項

Symfoware Server Standard Edition の各機能をインストールすると、以下のメニューに各機能のソフトウェア説明書が登録されます。

各機能のソフトウェア説明書に記載されている注意事項を参照したうえで、使用してください。

ーMicrosoft(R) Windows(R) 2000で使用する場合

[スタート]-[プログラム]-[Symfoware Server Standard Edition]-[はじめに]

—Microsoft(R) Windows Server(R) 2003または  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008で使用する場合  
[スタート]-[すべてのプログラム]-[Symfoware Server Standard Edition]-[はじめに]

#### 4.3.2 Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 x64 Editions 上で使用する場合の注意事項

##### (1) Windows Server(R) 2003 x64 Editions上での動作

本商品は、Windows Server 2003(R) x64 EditionsのWOW64(注)サブシステム上で、  
32ビットアプリケーションとして動作します。  
注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

#### 5. インストール手順

本ソフトウェアをインストールする手順を以降に説明します。  
旧バージョン・レベルからの移行を行う場合にはオンラインマニュアルの  
“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows(R) -” の  
“付録A 移行時の作業手順”を参照し、手順を確認してから作業を開始してください。

##### 5.1 インストール先のディレクトリ構成

```

¥---SFWSV¥----+ ..... 「Symfoware Server
+             +             Standard Edition (サーバ機能)」
+             +             基本機能ディレクトリ
+             +---ESQL¥ ..... ESQLのモジュール格納ディレクトリ
+             +---NAVI¥ ..... マニュアルページ格納ディレクトリ
+             +---RDASV¥ ..... RDAサーバのモジュール格納ディレクトリ
+             +---RDB¥ ..... RDBのモジュール格納ディレクトリ
+             +---Uninstall¥ ..... インストールのモジュール格納ディレクトリ
+             +---WAD¥ ..... WebAdminのモジュール格納ディレクトリ
+             +---WDT¥ ..... WebDBtoolsのモジュール格納ディレクトリ
+
+---SFWETC¥----+ ..... 「Symfoware」の制御ファイル格納ディレクトリ
+             +---RDB¥ ..... RDBの制御ファイル格納ディレクトリ
+
+---WINNT¥----+
+             +---ESQL¥ ..... ESQLのランタイムモジュール格納ディレクトリ
+             +---SYSTEM32¥ ..... 再配布可能モジュール格納ディレクトリ

```

##### 5.2 インストールの前準備

###### 5.2.1 環境設定ファイルのバックアップ方法

環境設定ファイルのバックアップ方法については、オンラインマニュアルの  
“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows(R) -” の  
“付録A 移行時の作業手順”を参照してください。

###### 5.2.2 インストール時間

本ソフトウェアをインストールするために必要な時間は、以下の通りです。

項番	インストール方法	インストール所要時間
1	CD-ROMから直接インストールする場合	約5分

###### 5.2.3 その他のインストールの前準備

Symfoware Serverをインストールする前に必要な作業については、オンライン  
マニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用  
- Windows(R) -”の“第3章 インストール前の作業”を参照してください。

###### 5.2.4 クラスタシステムの場合の注意事項

クラスタシステムの場合の注意事項については、オンラインマニュアルの  
“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows(R) -” の  
“第3章インストール前の作業”を参照してください。

##### 5.3 インストール/アンインストール時の注意事項

###### (1) Symfowareをインストールする場合の注意事項

— Symfowareをインストールする前に、システムのタイムゾーンを正しく設定し  
てください。

日本国内で使用する場合は、以下の環境変数を設定してください。

・ TZ=JST-9

- Windows (R) 2000、およびWindows Server (R) 2003の場合、「インストール先の選択」画面において、参照ボタンよりフォルダ選択を実施するときに、存在しないパス名を入力するとエラーが出力され、その後フォルダ選択画面が非アクティブ状態となる場合があります。この状態が発生した場合は、キャンセルボタンによりフォルダ選択画面を終了させてから、再度参照ボタンによるフォルダ選択を実施してください。上記処理を行ってもフォルダ選択画面の非アクティブ状態が解除されない場合は、インストールを中止し、再度インストールを実行してください。

(2) Symfoware Server サーバ機能とSymfoware Serverクライアント機能との混在について

- Symfoware Server サーバ機能とSymfoware Server クライアント機能を混在インストールする場合は、以下の手順でインストールしてください。

- 1) Symfoware Server サーバ機能をインストールしてください。
- 2) Symfoware Server クライアント機能をインストールしてください。

- 混在させるクライアント機能は、本製品に同梱されているクライアント機能を使用してください。

(3) アップグレードインストールを行う場合

- Symfoware Serverのアップグレードインストールにより、以下の機能は削除されます。

- ・ RDBオブジェクトマネージャ
- ・ データベースマネージャ
- ・ レポートライタ
- ・ ODB
- ・ ハイブリッドビュー (Symfo-DD)

- RDBを起動すると以下のメッセージが出力されることがあります。

「qdg13108e:領域不足のためログ管理ファイルを拡張できません」

上記のメッセージが出力された場合は、100キロバイト以上の空き容量を確保するか、155キロバイト以上の空き領域のあるパスへ構成パラメータファイルのRDBLOGMANAGEを変更し、ログ管理ファイルを移動してからRDBを再起動してください。

- Symfowareをアップグレードインストールした場合に、SymfoNETのインストールディレクトリ(例、C:¥SYMFOCMN)が残っている可能性があります。この場合は、以下の対処方法を参考にして処理を行ってください。

原因 : 削除しようとしたファイルがアプリケーションまたはサービスから使用中です。

- 対処方法:
- 1) 動作中のアプリケーションを終了してください。
  - 2) [コントロールパネル]の[サービス]を起動し、以下のサービスを停止してください。
    - ・ Authentication Service (F3BW) および
    - ・ その他のxxxxxxxxxx (F3BW) (xxxxxxxxxxは、任意の名前)
  - 3) インストール時に指定した「SymfoNETのインストールディレクトリ(例、C:¥SYMFOCMN)」をエクスプローラ等から削除してください。

(注意) サービスを停止した場合に「エラー2185:無効なサービス名です」というエラーが発生しますが、そのまま続行してください。

- 本製品は、以下の製品からアップグレードインストールを行うことができます。また、下記以外の製品からアップグレードインストールを行いたい場合は当社技術員(SE)に相談してください。

- ・ SymfoWARE (R) Server for Windows NT V1.2
- ・ SymfoWARE (R) Server for Windows NT V4.0
- ・ SymfoWARE (R) Server for Windows NT V5.0
- ・ Symfoware (R) Server for Windows V6.0
- ・ Symfoware (R) Server for Windows V7.0
- ・ Symfoware (R) Server Base Edition V8.0
- ・ SymfoWARE (R) Server Standard Edition V2.0
- ・ SymfoWARE (R) Server Standard Edition V4.0
- ・ SymfoWARE (R) Server Standard Edition V5.0
- ・ Symfoware (R) Server Standard Edition V6.0
- ・ Symfoware (R) Server Standard Edition V7.0
- ・ Symfoware (R) Server Standard Edition V8.0
- ・ Symfoware (R) Server Standard Edition V9.1

注) 上記のいずれの製品も以下のOS上で動作している必要があります。

- ・ Microsoft (R) Windows (R) 2000 Server operating system
- ・ Microsoft (R) Windows (R) 2000 Advanced Server operating system
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Standard Edition

- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Enterprise Edition
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Standard x64 Edition
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Enterprise x64 Edition
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003 R2, Standard Edition
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003 R2, Enterprise Edition
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003 R2, Standard x64 Edition
- ・ Microsoft (R) Windows Server (R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition

#### 5.4 インストール時およびアンインストール時に表示されるメッセージについて

インストール時およびアンインストール時に表示される場合がある、タイトルが“サービス管理”のメッセージについて説明します。

本文： サービス“xxxx”（注）を時間内に停止できませんでした。詳細コードは“yyyy”（注）です。再試行を選択すると再度サービスの停止を行います。  
キャンセルを選択した場合はサービス“xxxx”を手動で停止してから再度インストールまたはアンインストールを行ってください。

対処： サービス“xxxx”を停止した後、再度実行してください。  
サービスが停止できない原因については、サービスを使用しているアプリケーションが動作していることなどがあります。  
サービスを停止できない場合の対処については、各サービスのマニュアル、README等を参照してください。

本文： サービス“yyyy”がサービス“xxxx”を使用しているため、サービス“xxxx”を停止できません。

対処： サービス“yyyy”を停止した後、再度実行してください。

本文： 動作環境に異常があります。詳細コードはxxxxです。

対処： 製品をいったんアンインストールし、再度インストールを行ってください。

その後も同じメッセージが表示される場合は、詳細コードを控えて当社技術員(SE)に連絡してください。

本文： 処理中に異常が発生しました。詳細コードはxxxxです。

対処： 詳細コードを控えて、当社技術員(SE)に連絡してください。

注) “xxxx”, “yyyy”は任意の文字列

#### 5.5 ソフトウェアのインストール

##### 5.5.1 初期インストール

初期インストール手順については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第4章 初期インストール”を参照してください。

##### 5.5.2 再インストール

再インストール手順については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第5章 再インストール”を参照してください。

##### 5.5.3 アップグレードインストール

アップグレードインストール手順については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第6章 アップグレードインストール”を参照してください。

#### 5.6 インストール後の環境設定

本ソフトウェアをご使用になる前に、環境設定を行ってください。設定方法については以下のマニュアルを参照してください。

- ・ RDB機能 . . . . . 『Symfoware Server セットアップガイド EE/SE用』
- ・ WebAdmin機能 . . . . . 『Symfoware Server セットアップガイド EE/SE用』
- ・ WebDBtools機能 . . . . . 『Symfoware Server セットアップガイド EE/SE用』  
および  
『FUJITSU Symfoware Server  
WebDBtoolsユーザズガイド』

#### 5.7 ソフトウェアの削除方法

Symfoware Serverのアンインストール手順については、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows (R) -”の“第7章 アンインストール”を参照してください。

### 6. Symfoware Server クライアント機能について

#### 6.1 構成製品

以下の各プラットフォーム用のSymfoware Server クライアント機能が同梱(注1)されております。ご使用のプラットフォーム用のSymfoware Server クライアント機能をインストールしてください。

- Symfoware Server クライアント機能 (Windows用)  
(Symfoware Client V9.1.1) 注2)
- Symfoware Server クライアント機能 (Solaris用)  
(Symfoware Client V9.1.1) 注2)
- Symfoware Server クライアント機能 (Linux用)  
(Symfoware Client V9.1.1) 注2)

注1) 下記CD-ROMとなります。

— クライアントプログラム

注2) 本製品のドキュメントまたはヘルプの中で、『Symfoware Server クライアント機能』を『Symfoware Client』と略することがあります。

## 6.2 ソフトウェア説明書について

Symfoware Server クライアント機能には、以下のソフトウェア説明書が用意されております。使用する場合は、必ず該当するソフトウェア説明書を参照してください。

以下に参照手順を示します。

[Linuxで参照する場合]

1. 下記のCD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットします。  
— クライアントプログラム
2. CD-ROMがマウントされていなければマウントします。
3. 以下のファイルをvi等で開いてください。

/マウントポイント/linux /readme.utf8	Linux用クライアント機能のソフトウェア説明書 (UTF8コードで記述されています)
/マウントポイント/linux /readme.euc	Linux用クライアント機能のソフトウェア説明書 (EUCコードで記述されています)

[PCで参照する場合]

1. 下記のCD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットします。  
— クライアントプログラム
2. 以下のファイルをメモ帳等で開いてください。

CD-ROMドライブ:¥windows ¥WINNT¥README.TXT	Windows用クライアント機能の ソフトウェア説明書 (SJISコードで記述されています)
--	--

[Solarisで参照する場合]

1. 下記のCD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットします。  
— クライアントプログラム
2. CD-ROMがマウントされていなければマウントします。
3. 以下のファイルをvi等で開いてください。

/マウントポイント/solaris /readme.utf8	Solaris用クライアント機能のソフトウェア 説明書 (UTF8コードで記述されています)
/マウントポイント/solaris /readme.euc	Solaris用クライアント機能のソフトウェア 説明書 (EUCコードで記述されています)
/マウントポイント/solaris /readme.txt	Solaris用クライアント機能のソフトウェア 説明書 (SJISコードで記述されています)

## 6.3 インストール手順

インストール手順については以下のドキュメントを参照してください。

- Symfoware Server クライアント機能 (Windows用)  
『FUJITSU Symfoware Server インストールガイド(クライアント編)』
- Symfoware Server クライアント機能 (Solaris用)  
『FUJITSU Symfoware Server インストールガイド(クライアント編)』
- Symfoware Server クライアント機能 (Linux用)  
『FUJITSU Symfoware Server インストールガイド(クライアント編)』

### 付録A Symfoware/RDB 補足説明

#### A.1 アプリケーションが無応答状態になっている場合について

アプリケーションを実行して、アプリケーションが無応答状態になっている場合は、アーカイブログファイルが満杯である可能性があります。

- イベントログに以下のメッセージが出力されていることを確認してください。

「qdg03132u:アーカイブログファイルが満杯です。」

- 上記メッセージがイベントログに出力されている場合は、以下の対処を行ってください。

- 1) 「rdblog -V -a」コマンドを実行して現在のアーカイブログ情報を表示してください。
- 2) 「rdblog -B アーカイブログ退避先名@パス名」コマンドを実行して、アーカイブログファイルの内容を退避してください。

## A.2 データ列関数と数値関数の非互換について

Symfoware Server V4.0L10以降では、文字列型の列に対してマルチバイト文字コードを挿入した場合に、正しく文字列操作ができるよう修正を実施しています。このため、文字列型の列にマルチバイト文字コードを含む場合の文字部分列関数 (SUBSTRING)、TRIM関数、POSITION式、LENGTH式に非互換が発生します。本非互換については、互換オプションを用意しています。

### [非互換の詳細説明]

従来は、文字部分列関数 (SUBSTRING)、TRIM関数、POSITION式、LENGTH式において、文字列型のデータをバイト単位に扱っていました。Symfoware Server V4.0L10以降では、これらの関数で文字列型のデータを文字単位に扱うように修正しています。

- ・ 文字列型のデータをバイト単位で扱う仕様の説明 (従来仕様)

#### (a) 文字部分列関数 (SUBSTRING)

指定した開始位置、文字列長をバイト数で計算した文字列長を返却します。

例) 文字部分列関数 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT SUBSTRING(C1 FROM 5 FOR 6) INTO :SUB1 FROM S1.T1
→結果は'ジカセ'になります。
```

#### (b) TRIM関数

TRIM文字にマルチバイト文字コードを指定できません。1バイトの英数字を指定してください。

#### (c) POSITION式

文字の開始位置をバイト数で返却します。

例) POSITION式 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT POSITION('カセ' IN C1) INTO :POS1 FROM S1.T1
→結果は7 になります。
```

#### (d) LENGTH式 (CHARACTER\_LENGTH式)

文字列の長さをバイト数で計算した文字列長を返却します。

例) LENGTH式 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT CHAR_LENGTH(C1) INTO :LEN1 FROM S1.T1
→結果は10 になります。
```

- ・ 文字列型のデータを文字単位で扱う仕様の説明

#### (a) 文字部分列関数 (SUBSTRING)

指定した開始位置、文字列長をマルチバイト文字コードも1文字として計算した文字数として扱います。

例) 文字部分列関数 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT SUBSTRING(C1 FROM 4 FOR 3) INTO :SUB1 FROM S1.T1
→結果は'ジカセ'になります。
```

#### (b) TRIM関数

TRIM文字にマルチバイト文字コードを指定可能です。

例) TRIM関数 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT TRIM(BOTH 'セ' FROM C1) INTO :MOJ11 FROM S1.T1
→結果は'CDラジカ'になります。
```

#### (c) POSITION式

文字の開始位置をマルチバイト文字コードも1文字として計算した文字数で返却します。

例) POSITION式 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT POSITION('カセ' IN C1) INTO :POS1 FROM S1.T1
→結果は5 になります。
```

- (d) LENGTH式 (CHARACTER\_LENGTH式)  
文字列の長さをマルチバイト文字コードも1文字として計算した文字数で返却します。

例) LENGTH式 (C1が'CDラジカセ'の場合。なお、C1のデータ型は文字列型とします。CDは1バイトの英数字です。)

```
SELECT CHAR_LENGTH(C1) INTO :LEN1 FROM S1.T1
→結果は6 になります。
```

#### [互換オプション]

文字列型におけるデータ列関数と数値関数の文字列の扱いを動作環境ファイルの実行パラメータで変更できます。

システム用動作環境ファイルに以下の実行パラメータを指定することにより、RDBシステム全体で文字部分列関数(SUBSTRING)、TRIM関数、POSITION式、LENGTH式の文字列の扱いを変更することができます。システム用動作環境ファイルについては、“Symfoware Server RDB運用ガイド EE/SE用 - Windows(R) -”の“システム用の動作環境ファイルによる定義”を参照してください。

- ・ 指定形式

```
+-----+
| STRING_COUNT_MODE = (処理単位) |
+-----+
```

- ・ 実行パラメータの意味

文字列を操作する文字部分列関数(SUBSTRING)、TRIM関数、POSITION式、LENGTH式について、文字列をバイト単位か文字単位のいずれで扱うかを指定します。

#### [パラメータの意味]

処理単位:

以下の中から1つを選択します。

BYTE: 文字列をバイト単位で扱います。

STRING\_COUNT\_MODE = (BYTE)

CHAR: 文字列を文字単位で扱います。

STRING\_COUNT\_MODE = (CHAR)

当実行パラメータを省略した場合は、STRING\_COUNT\_MODE = (CHAR)が指定されたものと見なします。

### A.3 キーワードのレベルの省略値について

Symfoware Server V5.0L10以降では、rdbddllexおよびsqlcc、sqlcobol、sqlpc、sqlpcobの各コマンドで処理されるSQL文のキーワードのレベルの省略値が、SQL92からSQL2000に変更されています。

また、Symfoware Server V5.0L10以降では、rdbexcsq1コマンドで処理されるSQL文のキーワードのレベルの省略値が、SQL96からSQL2000に変更されています。

このため、Symfoware Server V4.0L10以前からSymfoware Server V5.0L10以降へバージョンアップし、かつ、SQL文の識別子にSQL2000で新たに追加されたキーワードを使用していた場合、“識別子にキーワードが指定された”という旨のエラーになります。この場合は、以下に示す方法で対処してください。

- ・ rdbddllexコマンドでデータベースの定義を再実行する場合  
(データベースの定義を再実行しない場合は問題ありません)
  - エラーになるキーワードを区切り識別子(キーワードを"で囲む)で指定する。
- ・ sqlcc、sqlcobol、sqlpc、sqlpcobコマンドで応用プログラムを再コンパイルする場合  
(再コンパイルせずに応用プログラムを実行する場合は問題ありません)
  - -Wオプションでキーワードのレベルを変更する。または、
  - エラーになるキーワードを区切り識別子(キーワードを"で囲む)で指定する。
- ・ rdbexcsq1コマンドでSQL文を実行する場合
  - クライアント動作環境ファイルのSQL\_LEVELでキーワードのレベルを変更する。または、
  - エラーになるキーワードを区切り識別子(キーワードを"で囲む)で指定する。

### A.4 非活性状態のインデックスについて

インデックスを構成するDSIが、rdbsloderコマンドで創成されていない状態、またはrdbfmtコマンドで初期化されていない状態の場合、Symfoware Server V4.0L10以前では、応用プログラムを実行するとエラーになります。

Symfoware Server V5.0L10以降では、エラーにならず、データの検索時にインデックスが使用されないように変更されます。

## A.5 RDBシステムセットアップ使用時の注意事項

現在、Symfoware/RDBを用いて構築するデータベースシステムの規模や利用範囲は、V1.0当初と比べ、大幅に拡大、多様化されています。これに伴い、RDBシステムセットアップで新規にシステム構築する際、各資源サイズ、各動作メモリ量、およびコネクション接続数など、各パラメタの初期表示値を、現在のシステム構築事例に合わせた最適値に変更しています。

RDBシステムセットアップの初期表示値を変更したパラメタを以下に示します。  
 なお、パラメタ初期表示値の改善に伴い、メモリ使用量が増えます。“2. 動作条件”の“(3) 必須資源”を参照してください。

### ◆テンポラリログ作成のセットアップ初期表示値の改善

要素	V5. 0L10以前	V5. 0L30以降
BIログサイズ	1[MB]	100[MB]
AIログサイズ	1[MB]	100[MB]
トランザクションエントリ数	100	200

### ◆ディクショナリ作成のセットアップ初期表示値の改善

要素	V5. 0L10以前	V5. 0L30以降
ディクショナリサイズ	S (21MB)	L (82MB)
データベース用ディレクトリサイズ	1[MB]	10[MB]

### ◆RDB構成パラメタのセットアップ初期表示値の改善

RDB構成パラメタ	V5. 0L10以前	V5. 0L30以降
RDBLOG	128, 128	256, 256
RDBEXTMEM	1024	6332
RDBCNTNUM	128	328 (*1)
RDBDBSNUM	1	16
RDBNETDBSNUM	省略値 (=3)	16

\*1. ローカルアクセス数で指定した値 × 2 + 200

### ◆デフォルトの共用バッファの各ページ長のセットアップ初期表示値の改善

共用バッファ	V5. 0L10以前	V5. 0L30以降
ページ長1K	32[枚]	520[枚]
ページ長2K	32[枚]	520[枚]
ページ長4K	256[枚]	520[枚]
ページ長8K	32[枚]	520[枚]
ページ長16K	32[枚]	520[枚]
ページ長32K	32[枚]	520[枚]

また、V5.0L30から、システム用の動作環境ファイルの実行パラメタの設定が可能になります。この中で、実行パラメタの省略値に対し、セットアップの初期表示値を推奨値に改善している実行パラメタがあります。以下に改善した実行パラメタの初期表示値を示します。

### ◆システム用の動作環境ファイルの実行パラメタのセットアップ初期表示値の改善

実行パラメタ名	省略値	セットアップ初期表示値
MAX_CONNECT_SYS	20	100
MAX_CONNECT_TCP	0	100
COMMUNICATION_BUFFER	1	32
WORK_MEM_SIZE	64	128
R_LOCK	NO	YES
USQL_LOCK	SH	EX
ARC_FULL	WAIT	RETURN
DEFAULT_TABLE_SIZE	(4, 256, 64, 0)	(32, 256, 512, 0)
DEFAULT_INDEX_SIZE	(2, 2, 168, 32, 32, 0)	(4, 4, 168, 32, 256, 0)
TEMPORARY_TABLE_SIZE	(256, 32, 0)	(256, 512, 0)
TEMPORARY_INDEX_SIZE	(160, 64, 32, 0)	(160, 64, 256, 0)
JOIN_ORDER	INSIDE	AUTO

## A.6 RDB構成パラメタRDBCOREの設定内容の検証強化について

Symfoware Server V6.0L10以降では、RDB構成パラメタRDBCOREに設定されたディレク

トリが存在しない場合や書き込み権限がない場合にSymfoware/RDBの起動を行うとエラーになります。このため、Symfoware Server V5.0L30以前からSymfoware Server V6.0L10以降へバージョンアップした場合には、RDB構成パラメタRDBCOREに書き込み可能なディレクトリを指定してください。

## 付録B Systemwalker Centric Managerとの連携について

### B.1 メッセージ対処の簡易化を使用している場合

本バージョン・レベルをインストールした業務サーバを監視対象とする場合は、本バージョン・レベルの媒体に格納されているノウハウ票をヘルプデスクサーバに登録する必要があります。ノウハウ票は、以下の場所に格納されています。

クライアントプログラムCD  
(CD-ROMドライブ):¥windows¥ETC¥HELPDESK¥Symfo80KH.csv

ノウハウ票の登録操作の詳細については、“Systemwalker Centric Manager 導入 手引書”を参照してください。

## 付録C 移行時の作業手順

古いバージョン・レベルから移行する場合は、バージョン・レベルによって移行方法が異なります。現在使用しているバージョン・レベルを確認し、オンラインマニュアルの“Symfoware Server インストールガイド(サーバ編) EE/SE用 - Windows(R) -”の“付録A 移行時の作業手順”にしたがって移行作業を行ってください。

## 付録D セキュリティを重視したシステムを構築する場合について

本バージョン・レベルでセキュリティを重視するシステムを構築する場合は、以下に示す対応を行ってください。なお、アップグレードを行う場合には、従来の環境および運用を十分に見直し、問題がないことを確認してから環境設定を行ってください。

### D.1 機能のインストール可否について

Symfoware Serverには、いくつかの機能が含まれていますが、セキュリティ重視のシステムに適さない機能がありますので注意してください。以下に機能の対応可否を示します。適さない機能については、インストールしないことで対処してください。

- サーバ機能  
[基本機能]

RDB機能	可
C/COBOL プレコンパイル	可
WebAdmin機能	否(注1)
WebDBtools機能	否(注1)
RDA機能	否(注1)
- クライアント機能

JDBC	可(注2)
ODOS	可(注2)
C/COBOL プレコンパイル	可
- その他の機能

スタンバイ機能	否
---------	---

注1) 基本機能のため無条件にインストールされますが、使用しないでください。

注2) Firewallを越えて使用しないでください。

### D.2 インストール後のセキュリティ対応について

セキュリティ重視のシステムを構築する場合は、サーバ機能またはクライアント機能をインストール後に以下の対応が必要になります。

#### 1) データサーバでの対応について

サーバ機能のインストールおよびセットアップ時に作成されるディレクトリ・ファイルの権限設定で一般ユーザが書き込み可能なディレクトリ・ファイルが存在し、セキュリティ上脅威となる可能性があります。  
Administratorsグループのみにフルコントロールを指定してください。

ファイルアクセス権の変更手順を以下に示します。

(1) エクスプローラの起動  
「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラ」を選択して起動します。

#### (2) アクセス権の変更

##### (2)-1 ディレクトリまたはファイルを対象とする場合

- 以下の各ディレクトリを選択し、「プロパティ」ダイアログを表示させます。
- ¥SFWD (データ格納先)
  - ¥SFWETC (制御ファイル格納先)
  - ¥SFWSV (Symfoware Serverのインストール先)
  - ¥WINNT¥ESQL (ESQLのランタイム格納先)
  - RDBコマンドの指定ファイルの上位ディレクトリ

注1) ファイル選択と二者択一

注2) 実際のディレクトリ名は、インストールおよびセットアップ時に指定した名前になります。(上記は、デフォルトでインストールした場合のディレクトリ名です。)

## (2)-2 設定方法

[Windows (R) 2000の場合]

表示された「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブを選択します。表示されたディレクトリのダイアログで、「継承可能なアクセス許可を親からこのオブジェクトに継承できるようにする」のチェックをはずし、「Everyone」の権限を削除します。その後、「Administrators」を「フルコントロール」で追加します。

[Windows Server (R) 2003の場合]

表示された「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブを選択します。表示されたディレクトリのダイアログで、「詳細設定」ボタンを選択します。表示された詳細設定のダイアログで、「親からの継承可能なアクセス許可をこのオブジェクトと子オブジェクトすべてに伝達できるようにし、それらをここで明示的に定義されているものに含める」のチェックをはずし、「Everyone」の権限を削除します。その後、「Administrators」を「フルコントロール」で追加します。

[Windows Server (R) 2008の場合]

表示された「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブを選択します。表示されたディレクトリのダイアログで、「詳細設定」ボタンを選択します。表示された詳細設定のダイアログで、「編集」ボタンを選択します。ユーザーアカウント制御のダイアログが表示された場合は「続行」を選択します。「このオブジェクトの親から継承可能なアクセス許可を含める」のチェックをはずし、その後、「Administrators」を「フルコントロール」で追加します。

## 2) アプリサーバでの対応について

サーバ機能またはクライアント機能のインストールおよびセットアップ時に作成されるディレクトリ・ファイルの権限設定で一般ユーザが書き込み可能なディレクトリ・ファイルが存在し、セキュリティ上脅威となる可能性があります。

サーバ機能については、データサーバでの対応と同様です。設定方法については、「1) データサーバでの対応について」を参照してください。クライアント機能については、一般ユーザに対して、読み取りを指定してください。

ファイルアクセス権の変更手順を以下に示します。

### (1) エクスプローラの起動

「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラ」を選択して起動します。

### (2) アクセス権の変更

#### (2)-1 ディレクトリまたはファイルを対象とする場合

以下の各ディレクトリまたはファイルを選択し、「プロパティ」ダイアログを表示させます。

- %WINNT%\ESQL (ESQLのランタイム格納先)※
- %SFWCLNT (Symfoware Clientのインストール先)
- %Program Files%\Common Files\Fujitsu Shared\FJDBOLE 配下のファイル

注1) ファイル選択と二者択一

注2) 実際のディレクトリ名は、インストールおよびセットアップ時に指定した名前になります。(上記は、デフォルトでインストールした場合のディレクトリ名です。)

※ サーバ機能とクライアント機能を混在する場合は、アプリサーバでの対応を優先してください。

#### (2)-2 設定方法

[Windows (R) 2000の場合]

表示された「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブを選択します。表示されたディレクトリまたはファイルのダイアログで、「継承可能なアクセス許可を親からこのオブジェクトに継承できるようにする」のチェックをはずし、「Everyone」のアクセス許可から「フルコントロール」、「変更」、「書き込み」を拒否に設定します。

[Windows Server (R) 2003の場合]

表示された「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブを選択します。表示されたディレクトリまたはファイルのダイアログで、「詳細設定」ボタンを選択します。表示された詳細設定のダイアログで、「親からの継承可能なアクセス許可をこのオブジェクトと子オブジェクトすべてに伝達できるようにし、それらをここで明示的に定義されているものに含める」のチェックをはずし、「Everyone」のアクセス許可から「フルコントロール」、「変更」、「書き込み」を拒否に設定します。

[Windows Server (R) 2008の場合]

表示された「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブを選択します。表示されたディレクトリまたはファイルのダイアログで、「詳細設定」ボタンを選択します。表示された詳細設定のダイアログで、「編集」ボタンを選択します。ユーザーアカウント制御のダイアログが表示された場合は「続行」を選択します。「このオブジェクトの親から継承可能なアクセス許可を含める」の

チェックをはずし、「Everyone」のアクセス許可から「フルコントロール」、「変更」、「書き込み」を拒否に設定します。

- 3) rdbコマンド実行時のファイルの権限設定  
rdbコマンドを実行することにより作成されるファイルに一般ユーザで書き込み可能なファイルが存在し、セキュリティ上脅威となる可能性があります。ファイルは、実行するrdbコマンドの環境により異なります。  
rdbコマンドのパラメタまたは入力ファイルで指定したファイルに対し、コマンド実行後にAdministratorsグループのみにフルコントロールのアクセス権を設定してください。または、コマンド実行前にパラメタまたは入力ファイルで指定するファイルの上位ディレクトリに対し、Administratorsグループのみにフルコントロールの指定とサブディレクトリ配下でも有効とするアクセス権を設定してください。なお、一般ユーザ用ファイルへのアクセス権は利用するシステムのセキュリティ・ポリシーにしたがって設定してください。

- ・データベーススペース (rdbddlexコマンド)
- ・ログ管理ファイル (rdblogコマンド)
- ・テンポラリログファイル (rdblogコマンド)
- ・アーカイブログファイル (rdblogコマンド)
- ・アーカイブログ退避ファイル (rdblogコマンド)
- ・RDBディクショナリファイル (rdbcrdic/rdbaldicコマンド)
- ・データベース用RDBディレクトリファイル (rdbcrdic/rdbrcvdicコマンド)
- ・RDBディクショナリ用RDBディレクトリファイル (rdbcrdic/rdbrcvdicコマンド)
- ・RDBディクショナリの退避データ (rdbdmpdicコマンド)
- ・DSIの退避データ (rdbdmpコマンド)
- ・中間退避ファイル (rdbgcdic/rdbgcdsiコマンド)
- ・外部ファイル (rdbunlコマンド)

ファイルアクセス権の変更手順は、“インストールおよびセットアップに作成されるディレクトリ・ファイルの権限設定”と同様です。

#### 付録E SymfoWARE (R) WebLinkを利用する場合の注意事項

SymfoWARE (R) WebLinkを利用しているサーバでは、同時にWebDBtoolsを利用することはできません。以下の点に注意してください。

- (1) SymfoWARE (R) WebLinkをインストールしているサーバでは、WebDBtoolsのセットアップを行わないでください。
- (2) WebDBtoolsをセットアップしているサーバでは、SymfoWARE (R) WebLinkのセットアップを行わないでください。

#### 付録F WebAdmin補足説明

##### F.1 ライセンス文

###### F.1.1 Apache License

Apache License  
Version 2.0, January 2004  
<http://www.apache.org/licenses/>

#### TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

##### 1. Definitions.

“License” shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

“Licensor” shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

“Legal Entity” shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, “control” means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

“You” (or “Your”) shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

“Source” form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

“Object” form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution." "Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.
3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.
4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:
  - (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and
  - (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
  - (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and
  - (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and

do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.
6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.
7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.
8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.
9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

APPENDIX: How to apply the Apache License to your work.

To apply the Apache License to your work, attach the following boilerplate notice, with the fields enclosed by brackets "[ ]" replaced with your own identifying information. (Don't include the brackets!) The text should be enclosed in the appropriate comment syntax for the file format. We also recommend that a file or class name and description of purpose be included on the same "printed page" as the copyright notice for easier identification within third-party archives.

Copyright [yyyy] [name of copyright owner]

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");  
you may not use this file except in compliance with the License.  
You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software

distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,  
WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.  
See the License for the specific language governing permissions and  
limitations under the License.

## 付録G WebDBtools補足説明

### G. 留意事項

#### G.1 Webサーバの留意事項

- G.1.1 サポートするWebサーバ  
以下のWebサーバをサポートしています。  
[Windows (R) 2000の場合]

WebAdminのWebサーバ機能  
Interstage Application Server (Webサーバ機能)  
Internet Information Services 5.0

[Windows Server (R) 2003の場合]

WebAdminのWebサーバ機能  
Interstage Application Server (Webサーバ機能)  
Internet Information Services 6.0

[Windows Server (R) 2008の場合]

WebAdminのWebサーバ機能  
Interstage Application Server (Webサーバ機能)  
Internet Information Services 7.0